

ふきのとう

昨年のいこいのコンサート風景
今年も11月16日(土)に開催



「ふきのとう」創刊号に寄せて

院長 鈴木 行三

私たちはこの度、市立病院はどうあるべきかを見直し、以前から掲げていた7項目からなる「市立秋田総合病院運営の基本方針」を改め、病院運営という自分たちの側からのものでなく患者さんが主役という観点から「市立秋田総合病院の理念と基本方針」を定めました。

患者さんに信頼され、患者さんから選ばれる病院であるためには、何時でも質の良いそして安全な医療を提供できる病院であらねばなりません。

そこで職員の行動の根本になる病院の理念として「市立秋田総合病院はすべての人々の幸福のため、良質で安全な医療を提供し続けることを目指します」を掲げました。そしてこの理念を実現するための5つの基本方針を定めました。

「市立秋田総合病院の理念と基本方針」を記したパネルを病院の正面玄関のホールに掲げ、私たちの毎日の行動の基礎としています。

この広報紙は上記の理念と基本方針にしたがって、広く患者さんに私たちの病院を知っていただけるようにつくりました。その内容には患者さんに知っていただきたいことを中心に据えています。職員同士でも自分以外の部署の人たちがどの様に仕事をしているのか、なかなか分かり難いこともありますので、お互いに理解を深め、そして力を合わせて、この病院を患者さんのためのより良い病院にしていくための内容も加えるようにしています。

患者さんがこの広報紙をお読みくださって、病院に対する親しみを増していただければ、また私たちのいたらぬ点をどしどし指摘いただければと思います。

[ナースキャップなし]は、意外と好評です!



すでにお気づきの事と思いますが、市立秋田総合病院の看護師は、今年の4月より、ナースキャップをつけておりません。

ナースキャップに慣れて、看護師を目指した人もいるほど、象徴的なものだったので、患者さんからの感想がちょ

っぴり心配でした。

でも…「患者さんのお世話をする時、角がぶつかって危ない」など患者さんを思う気持ちから外した事情をご理解いただいたためか、意外なほどに好評をいただいております。

患者さんの声を紹介します!



村山さん



高橋さん



藤井さん

「ナースキャップなし、いいと思いますよ」



中嶋さん

外来通院中の患者さんは、「看護婦さん、とても若く見えるよ!キャップないと床屋賃も大変でしょ?」



春日さん(左) 渡辺さん(右)

何度か市立病院に入院経験のある渡辺さんと春日さんは、「全く違和感ないですよ。私たちの安全を考えての事なんですね」



小柳さん

新潟にお住まいで入院中の小柳さんは、「新潟の主な病院でもキャップはつけていませんよ。とても良いと思いますよ」



高橋さん

入院中の娘さんに面会にいらしていたお母さんは、「看護婦さんといえば、ナースキャップだから、ちょっとさみしい気もするけど、患者の事を考えてくれた事なんだね」



田口さん夫妻

ありがとうございます。皆様のあたたかいご声援が市立病院職員のパワーの源です。これからも、皆様のご期待に添えるようがんばっていきます!!



肺ガン検診のすすめ

今年9月から、今までのX線単純撮影に変わり、CT(コンピュータ断層撮影)による検診を開始し、これまで発見できなかった微小な肺ガンが発見可能になりました。肺ガンは最近増加傾向にあり、男性のガン死亡率の一位といわれています。そのため、早期発見・早期治療が有効であることから、喫煙者の方はもちろん、それ以外の方にも検診を受けることをおすすめします。

【検診日】 毎週水曜日 午後12時30分～

※所要時間は、検査を含め1時間程度です。

【人数】 1回あたり3名

※予約が必要です。新患受付でお申し込みください。

【検査項目】 ①CT ②腫瘍マーカー(採血) ③喀痰(かくたん)細胞診

【料金】 1回につき21,000円(税込)



「防ごう、インフルエンザ!!!」

そろそろ、インフルエンザの話題が出てくる季節となりました。かかるとこわいインフルエンザ、みんなで考えてみましょう。

そこで今回は、インフルエンザについて、小児科の島田先生と、呼吸器内科の本間先生のお二人に質問してみました。

Q：どういう症状があったらインフルエンザかな?と思えばよいでしょうか?

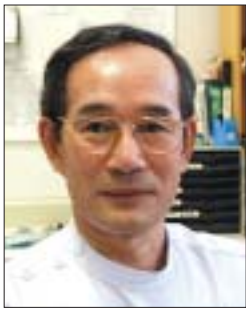
島田先生：いつもの風邪と違う、というところが大事です。熱がとても高いとか、全身の症状が強くてつらいといったようなことです。

Q：かかったかな、という場合はどのようにしたらよいでしょうか?

島田先生：休養と栄養をとることが基本ですが、早めに病院を受診されることをおすすめします。最近、インフルエンザによく効く薬が開発され、早めに飲むと効きます。

Q：子供さんでは、特にどういうことに注意が必要なのですか?

島田先生：水分補給が重要ですね。また、お子さんの様子が「いつもと違う」ということがあった場合は、重い合併症の始まりである可能性があります。その場合は、緊急に外来を受診してください。



島田先生

Q：ワクチンは、やはりした方がよいでしょうか?

島田先生：違った種類のワクチンも開発中ですが、今のところ、注射のワクチンが予防としては期待できるものですので、おすすめして

います。

Q：本間先生、お年寄りのインフルエンザの症状は、どのようなものですか?

本間先生：子供や、一般の成人に比べて、上気道の症状が少ないです。咳や、たんが増えたり、食欲が落ちたり、元気がない、といった症状が主体です。ご高齢の方では、熱があまり上がらないこともあります。



本間先生

Q：ご高齢の方がかかった場合は、どんなことに注意が必要ですか?

本間先生：ほとんどの方に脱水症状があらわれます。水分をとってもらうように心がけてください。肺炎を併発することも多いので、抗生物質の併用も必要になることが多いです。

Q：生活習慣として、どういう注意が必要ですか?

本間先生：うがいをすることや、流行期では人ごみを避ける、栄養や休養に気をつける、あやしい場合はたばこやお酒も控えるなどの注意も大事ですね。

島田先生、本間先生、ありがとうございました。

インフルエンザを予防するには、生活習慣に気をつけて、ワクチン接種、かかった場合の早い治療ということになるでしょうか。



インフルエンザと解熱剤

高熱を伴う代表的な病気にインフルエンザがあります。しかし、発熱は体の中に入ったインフルエンザウイルスをやっつけようとする生体防御反応の一つなので熱を下げるのは慎重に行わないといけません。解熱剤を使う場合は、以下のような人を目安にして使われます。

- ① 39度以上の高熱で、全身症状が目立つ人
- ② 39度以下でも、心不全などの病気がある人
- ③ 熱性けいれんが出たことがある乳幼児
- ④ てんかんのある人

お薬は医師から言われた通りに使い、効かないといって勝手に何度も使ったり、1回の量を増やしたりしないでください。また、インフルエンザの場合、家にある薬を服用するとかえって体調を悪くする場合もあるので他人にあげたり、安易に使わないで医師や薬剤師に相談してください。



風邪を予防する食生活

●十分なエネルギーを補給する

エネルギー消費が増えて、じっと寝ているだけでもエネルギーのとれるものが必要です。

●タンパク質、ビタミン、ミネラルを十分に補給する

発熱時にはこれらの成分の消費が増え、特にビタミンCがたくさん必要です。

ビタミンCを多く含む食品

果物（キーウィ、オレンジ、グレープフルーツ、いちご）
野菜（ブロッコリー、小松菜、かぼちゃ）

●東洋医学の初期の特効薬

ねぎ→白い部分10cmを刻み、味噌大さじ1杯と合わせ熱湯を注ぐ。

くず→カップ1杯のくず湯に梅干1個、はちみつ少々を加える。

レントゲン写真がデジタル(CRシステム)になりました!!

放射線科では、今年の6月より画期的な撮影システム(※写真1)を導入しました。

- 従来のものより更に細かいところまで良く見えるようになりました。
- フラットパネルは、撮影した3秒後に画像を見ることが出来ます(※写真2)。
- コンピュータで写真を色々加工でき、診断しやすい写真を作ることが出来ます。
- コンピュータの画面でレントゲンの写真を観察できます。
- フィルムの現像に現像液や定着液を使用しない環境にやさしいタイプとなりました(※写真3)。
- 将来的には、簡単にレントゲン写真をインターネットに載せる事も可能となります。



※写真1) CR900



※写真2) フラットパネル



※写真3) ドライイメージャー

このように放射線科は、時代の先端の技術をいつも取り入れ、患者さんの多様なニーズに応えるよう努力しています。

病院 近景



お延の井戸

お延は中通町相沢甚左衛門の娘で、かなりの美人であった。はじめ大工頭に嫁いだが、田代雲夢(忠国1757~1830年)という秋田蘭画の画人に気に入られ、妾として別邸に囲われた。しかし、貞節を守り自殺してしまったと聞く。お延を憐れんだ雲夢は、井戸(石造八角)を掘り、その囲石には梵字で経文を彫刻したものを用いた。この井戸は、病院増築とともにマンホールの下になってしまったが、その井水は霊宮功德水と称せられ、今も病院正面花壇の脇に流れ続けている。また、その囲石(57枚1組)は極めて珍しく、秋田市の有形文化財に指定され、市教育委員会にて保存されている。

研修医紹介



蘭州市医療研修員

杜宏偉(ドゥ ホン ウェイ)さん

中国蘭州市から消化器内視鏡の研修医としてこの病院にやってきました。杜宏偉です。10月7日から約2ヶ月間、消化器内科でお世話になっています。院長はじめ諸先生からは、温かく指導していただき、充実した毎日を送っています。今回の研修では、内視鏡の専門的な知識を学び経験を積んで、中国に戻ってからは、この経験を活かして病院のため、多くの患者さんのため頑張りたいと思います。

プロフィール

- 職 業：医師(専門は消化内科及び消化器内視鏡)
- 勤務先：蘭州市第二人民医院(1994年8月~)
- 居住地：中国甘肅省蘭州市

◆編集担当者から…

この度、市立病院の広報紙「ふきのとう」を創刊いたしました。「ふきのとう」は、年4回春夏秋冬の季節に合わせ、その時節の旬の話題を盛り込んでお届けしていきます。今後とも市立病院をより身近なものとして感じていただき、ご意見ご感想をお寄せくださることをお待ちしております。そして皆様の声を病院の運営にも反映していきたいと考えております。これからも、より良いものをご提供できますようスタッフ一同努力してまいりますのでご愛読のほどよろしくお願いいたします。



平成14年11月28日発行(年4回発行)No.001